※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ギガフォトン株式会社

1．会社の概要

(1) 会 員 名：ギガフォトン株式会社
(2) 所属部会：関東電気機器部会第３分科会
(3) 資 本 金：50億円
従業員数：723名（2021年４月１日現在）
(4) 事業内容
半導体リソグラフィ用などのエキシマレーザ及び極端紫外線光源の開発・製造・販売
(5) 社　　是
ギガフォトンは，No.1の技術・品質の商品を提供し，常に業界のリーダーとして社会に貢献します。ギガフォトンは，社内外を問わず互いに強い信頼関係を築き，全員が達成感を分かち合うことのできる人間集団を目指します。
(6) コーポレートロゴ
「来るべきGigabit時代の光をサポートする」という意味を込め，単位を表す「GIGA」と光を表す「PHOTON」を組み合わせています。

2．知的財産部門の概要

(1) 組織上の位置及び名称

研究開発本部の中の知的財産部と位置付けられています。

(2) 構成及び人員

企画管理課と知財技術課で構成され，総勢は12名です。

(3) 沿　革

知的財産部門は，2011年に開発部門内に知的財産課ができ，組織的に特許出願・維持管理ができる体制になりました。2017年には知的財産部が社長直轄組織として創設されました。2021年，本部制導入により，研究開発本部知的財産部となっています。

3．わが社の知的財産活動

(1) 概　要

当社の主力製品であるエキシマレーザは，半導体製造の主要プロセスであるリソグラフィ用光源として使用されています。これまで，エキシマレーザの短波長化やスペクトル狭帯域化といった基本性能の改善が，半導体微細化の原動力のひとつになってきました。

近年は，微細化の最先端はさらに波長の短いEUV光源へシフトしつつあり，エキシマレーザへの基本性能改善要求は一段落した感があります。しかし半導体の多層化に伴ってエキシマレーザの使用頻度はむしろ増加しており，歩留まり改善や生産性向上といった課題解決への貢献が期待されるようになりました。言い換えれば，ユーザからゴール（要求仕様）を示される時代は終わり，レーザメーカ自身がユーザの抱える課題の解決方法を発想し，製品に織り込ん

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

でいくことが必要な時代になったわけです。

知的財産部は，ほぼこの転換期にあった2017年に，開発部門内にあった知的財産課が発展する形で創設されました。それまでの自社実施技術の保護のための特許出願から，当社の事業そのものを保護・発展させるという視点での戦略的な出願と，それに加えて独創的で優れた発想・発明を支援する，より広い視野を持った組織への転換が期待されたわけです。

新たに発足した知的財産部が重点活動として取り組んだ活動について以下に紹介します。

(2) 知財戦略

当社の場合，「知財権取得の目的」「知財経費の考え方」「権利維持のガイドライン」「対競合出願戦術」「出願国戦術」について商品群ごとにまとめたものを知財戦略と呼んでいます。この中でいちばん悩ましかったのは経費です。適正な経費とは？と問われると，費用対効果が分かりにくい知財活動の適正経費を理屈で導き出すのは困難でした。その点では国防費と似ていると思ったことからヒントを得て，売上高に対する一定割合をガイドラインとすることを提案し，経営陣に認めてもらいました。この数字は将来においても不変ではなく，知財部門の社内におけるプレゼンスや貢献度によって変動するものと解釈しています。

またこの知財戦略を策定する基となる情報がIPランドスケープであると位置づけました。IPランドスケープで情報を収集，整理，分析した結果は，知財戦略に反映させるだけでなく，『知財白書』として編集し，経営陣，技術部門と共有することにしました。この知財白書の第１版を作成するのには19ヵ月を要しましたが，第５版となる2021年度版は約２ヵ月で編集できるようになりました。

(3) 発明支援

発明支援活動のひとつとして技術会議に知財部員も出席し，発明の発掘を行っています。また開発に苦戦している課題については，課題解決のためのロジックツリーを作成し，解決策へ特許情報を付与することで公知技術，他社権利技術，未知の方法などに整理し，課題解決への道筋を技術者と一緒に探る活動をしています。最近では技術部門の方から課題解決の方向性を知財部に相談に来るという案件が少しずつではありますが増えてきました。

また，「特許事典」という技術開発時に使用するツールの提供も行っています。これは当社製品の技術分野において，製品の部品名または技術課題から大分類，中分類と絞り込んでいき，最後は自社他社の関連特許の要約とDBのリンクにたどり着けるものです。これにより素早く系統立てて既存の関連特許を認識することができ，重複した技術開発や他社特許の存在に開発後に気づくといったムダを排除できると技術者には好評です。

4．今後の活動方針

より広い視野を持った組織を目指して知的財産部が発足して５年目，知財戦略の策定や発明支援活動など当初目指した活動の「かたち」はなんとなく見えてきました。他にもやりたい事，やるべき事がたくさんありますが，今はこれまでの活動に「魂」を入れていくことを優先すべきと考えています。そのために最も重要なことは私たち部員のマインドを変えていくことです。私たちの活動は非常に専門的ですが，それ故に企業人としての高い視点を持てなくなる恐れがあります。実際，知財部門から他部門に移るという人事的交流はほとんどありません。「3人のレンガ職人」の寓話ではありませんが，「あなたの仕事は何ですか？」と問われたとき，「特許を出すことです」ではなく「知的財産を用いて会社をより発展させることです」と答えられる組織を目指します。

（原稿受領日　2021年９月27日）